

# 第3回 小郡市老人福祉計画作成協議会 議事録

## ○日時

平成29年11月6日（月）19:00～20:30

## ○場所

小郡市役所 西別館3階 会議室

## ○協議事項

- 第7期小郡市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（骨子案）について

## ○協議内容

保健福祉部長からの開会あいさつ、会長のあいさつの後、会長の議事進行で、事務局より、配布資料を使用しながら、第7期小郡市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の骨子案について説明を行った。

事務局からの説明に対し、以下のような質疑応答が行われた。

（委員）

- ・地域包括支援センターはどの地区にどれくらい作る予定なのか具体的な案はありますか。また、運営は直営とするのでしょうか。

（事務局）

- ・地域包括支援センターの設置の区分けは、まだ具体的には決まっておりません。また、運営の方法については、市全体を統括するセンターを直営で1か所設置、市全域をいくつか分割して委託により複数設置、という方向で考えています。

（委員）

- ・「認知症初期集中支援チームによる支援」のところで、平成29年度の見込みが2人となっていて、少ないように感じますが、どのような形で進めているのですか。

（事務局）

- ・地域包括支援センターなどで相談を受けるなかで、事例ごとに包括のみでの対応かチームにつながるかを判断しています。その中で、平成29年度は2人程度になるものと見込んでいます。

（会長）

- ・閉じこもりなどのいわゆる困難事例とされるものが事業対象になるのでしょうかから、数はもともとそれほど多くはないでしょう。久留米市でも年間10例程度であると聞いています。1例で何ヶ月もかかるケースもあり、小郡では2～3件という数字が妥当であろうかと思えます。

（委員）

- ・第6期計画では、計画期間のところでは「数値目標」を記載されていましたが、今度の計画では「見込み」とされています。このように変更したのは、何か理由があるのですか。

(事務局)

- ・事業や取り組みの推進の目標となる、いわゆる数値目標という表現が、その性格上そぐわない内容もあることから、今回は見込みという表現としました。

(委員)

- ・認知症カフェの開設支援とありますが、実際に開設の動きはあるのでしょうか。もしそのような動きが特段ないのであれば、開設支援ではなく開設を働きかけるといった表現になるのではないのでしょうか。

(事務局)

- ・現在市のモデルケースとして働きかけ、このようなカフェの運営を考えている団体・ボランティアの人たちとの話し合いをもっています。来年には開設したいと考えています。

(委員)

- ・認知症の人たちが増加していると耳にするが、今後爆発的に増えるというような状況にあるのか。

(事務局)

- ・高齢者、特に後期高齢者が増えることで、症状に差はあるものの、5人に1人が認知症であるといった状況の予測が国からも示されています。

(会長)

- ・ぜひこういった場は増やしていってもらいたいと思います。

(委員)

- ・先ほど地域包括支援センターを複数設置することのお話がありましたが、基本目標1のページにも記載した方がいいのではないのでしょうか。

(事務局)

- ・ご指摘の点については、素案にする中で、整理して記載したいと思います。

(委員)

- ・高齢者運動会について、実施者が小郡市老人クラブ連合会となっていますが、市内高齢者の何%くらいが老人クラブに入っているのでしょうか。実際には老人クラブに入っていない人が多いように感じますが、実施の手段として老人クラブ連合会にお願いするままでいいのだろうかと思います。

(事務局)

- ・今年度老人クラブ連合会に加入されている会員数は2千人程度で確かに少なくなっています。現在、老人クラブ連合会の今後のあり方について、市と連合会とで検討を行っているところです。その中で運動会の実施についても課題に挙がっており、今後の実施について別の方法も視野に入れて検討しています。

(委員)

- ・そもそも老人クラブに加入していない人が多い。また老人クラブ連合会に所属していないクラブも多い。老人クラブへの支援というと連合会への支援となってしまうが、連合会に所属していないクラブやクラブに加入していない高齢者の人たちのことも考えていけないと思います。

(会長)

- ・そのような点も今後検討してもらいたいと思います。

(委員)

- ・「おごおりレク健康隊」のことを少し詳しく教えてください。

(事務局)

- ・現在 31 人が活躍しており、サロンからの要請に応じる形で体操やレクリエーションの指導を行うといった活動をしています。

(委員)

- ・通所型サービスについて A、B、C と記載があるが、それぞれもう少し詳しく説明を書いてほしいです。

(事務局)

- ・素案の中で加筆するような形で対応します。

(委員)

- ・「⑨ 高齢者の多様な就業・社会参加の促進」とあって、具体的な内容はシルバー人材センターのことになっているが、会員も高齢者の 1.5%であり、このタイトルのことをシルバー人材センターが担うという表現は荷が重いように思います。

(事務局)

- ・表現については検討したいと思います。

(委員)

- ・「ひまわりはつらつ講座」について、平成 29 年度になると大きく増加しているが、何か理由があるのでしょうか。

(事務局)

- ・担当課に確認して次回の会議で報告したいと思います。

(委員)

- ・財政難のなかで、高齢者のケアに対してボランティアに大いに活躍してもらおうことを考えているようですが、65 歳を過ぎてもまだまだ現役という人たちは多いという実態をしっかりと認識しながら、ボランティア養成のことを考えていかないといけないと思います。また、老人クラブというのはボランティア活動の場という認識も大切なように思っていて、会員である 80 歳代の人たちの活躍の場として老人クラブを支援していくという、そんな場として捉えていくことも大切になってくると思います。入りたいと思えるような老人クラブにしていくことが大事だと感じます。

(委員)

- ・高齢者の就労については、ここ 10 年くらいの間で様変わりしてきており、65 歳を超えた人たちでも働いている人たちの割合がかなり増加している中で、そのような実態を認識したうえで、この計画のことを考えていくことが必要ではないかと思います。

(事務局)

- ・委員ご指摘の点について、計画のなかに盛り込めるところがあれば盛り込んでいきたいと思っています。

(委員)

- ・老人クラブの会員数が増えないことの要因に「老人クラブ」という名称も影響があるのかも知れません。名称を変更することも一つの手だと思います。

(委員)

- ・市と一緒に「老人クラブの明日を考える会」のなかでもそのあたりを含めて検討しているところです。また、とりわけ農業をやってこられたところは70歳を超えても現役で活躍されている人が多いです。会員数が伸びないのは、このようなことも要因となっているのかもしれない。さらに70歳を超えると今度は他の人の世話をすることが億劫になってしまうことが多いので、老人クラブがそのような人たちにとって、魅力的なものであるかが課題であると思います。これからの老人クラブのことを考えると、単に老人クラブだけではなく、地域全体で考え、取り組んでいくことが大切で、そのためには協働のまちづくり協議会などとの連携が大事になってくると思います。

最後に、副会長より閉会のあいさつ、事務局から、今後のスケジュールについて説明があり、本協議会は終了した。

以上